

～ 2007年参议院議員選挙「女性の投票行動調査」結果レポート ～

民主党の大勝をもたらした、女性無党派層 その選択の情報源は“マスコミ報道”

選ばれたのは候補者でなく「政党」、期待するのは「改革」
ホネは「今回は自民に投票しなかった」！？

主婦を対象としたフリーペーパー「リビング新聞」を発行する株式会社サンケイリビング新聞社(本社:東京都千代田区、代表者:菊野 善衛)は、ミセスを主なユーザーとするウェブサイト「えるこみ」で、7月の参议院選挙についてのアンケート調査を実施。女性回答者の中から、地方区での自民党候補者への投票者と民主党候補者への投票者を抽出。それぞれがどんな情報や基準を重視して投票したのか、リビングくらしHOW研究所が集計・分析した。

民主への投票者は、マスコミ報道を参考に候補者を選択

- ・ 民主党候補への投票者が選択の参考にした情報源は、「新聞記事」49.7%、「テレビの報道」45.5%、自民党候補への投票者は、突出した情報源が見られなかった。

「政党」と「政見・政策・公約」で選ばれた民主、人柄も重視した自民への投票者

- ・ 民主党候補への投票者が「選ぶ基準」としたのは「所属政党・支援団体」71.0%、「政見・政策・公約」50.0%。
- ・ 自民党候補への投票者では、「所属政党・支援団体」61.1%、「政見・政策・公約」42.7%。「人柄・人物」42.7%、「過去の実績」「候補者の経歴」(ともに18.5%)も重視。

改革に期待する民主への投票者、景気回復・財政再建を期待する自民への投票者

- ・ 民主党候補への投票者が重視した政治課題は、「年金改革」「税制改革」「政治改革」。
- ・ 自民党候補への投票者は、「年金改革」のほか「景気回復」「財政再建」も重視、「政治とお金」に関しては比較的重視せず。

民主への投票者は結果に高い満足感。ただし現在も「支持政党なし」が半数

- ・ 民主党候補への投票者のうち88.5%が今回の選挙結果に対して「満足」、ただし民主党候補への投票者のうち54.1%が「現在、支持政党はない」と回答。

- * 当リリースの数値は、小数点二位以下を切り捨てて表記しています。
- * 当調査のデータは、<http://www.kurashihow.co.jp/>でご確認いただけます。

【データに関するお問い合わせ先】
株式会社リビングくらしHOW研究所
くらしHOW研究室 藤田
TEL:03-5216-9420 / FAX:03-5216-9430
info@kurashihow.co.jp

Press Release

「だれに投票するか決めるときに参考にした情報源は？」

民主党の勝利に、大きかったマスコミの影響

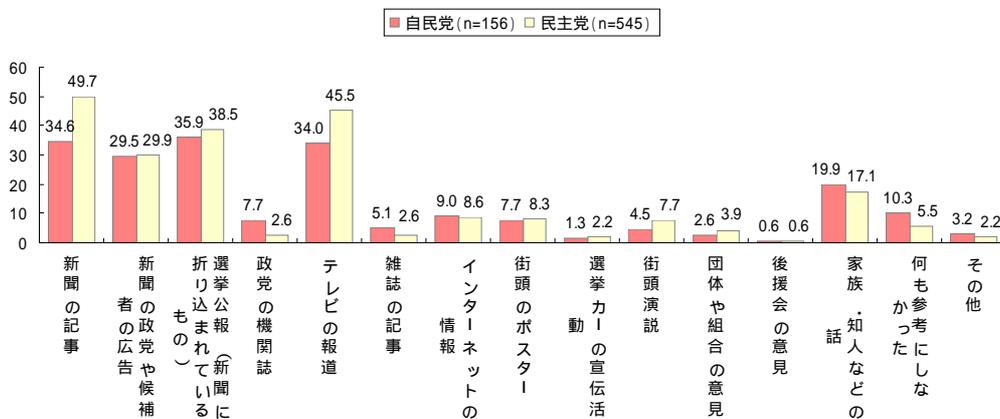
今回の選挙で大勝利をおさめた民主党だが、女性有権者の投票行動に大きな影響を及ぼしたのは、新聞、テレビといったマスメディアだった。民主党候補者への投票者の半数近くの人が、新聞の記事やテレビの報道を「参考にした」と回答。これは他の政党への投票者と比較してもトップの数字であり、今回の報道は、全体として民主党への追い風となっていた。

一方で自民党候補者への投票者は、突出した特徴は見られない。「何も参考にしなかった」人が10.3%、「政党の機関誌」を挙げた人が7.7%いることから、普段から自民党を支持する人が投票した割合が高いと推測される。

影響力を増すインターネット情報

影響力が増していると言われるインターネットの情報だが、9%程度の人が参考にしたと回答。新聞やテレビには及ばないが、街頭ポスター、街頭演説、選挙カーなど従来の選挙運動を上回る影響が見られた。

誰に投票するか決める際に参考にしたもの(複数回答)

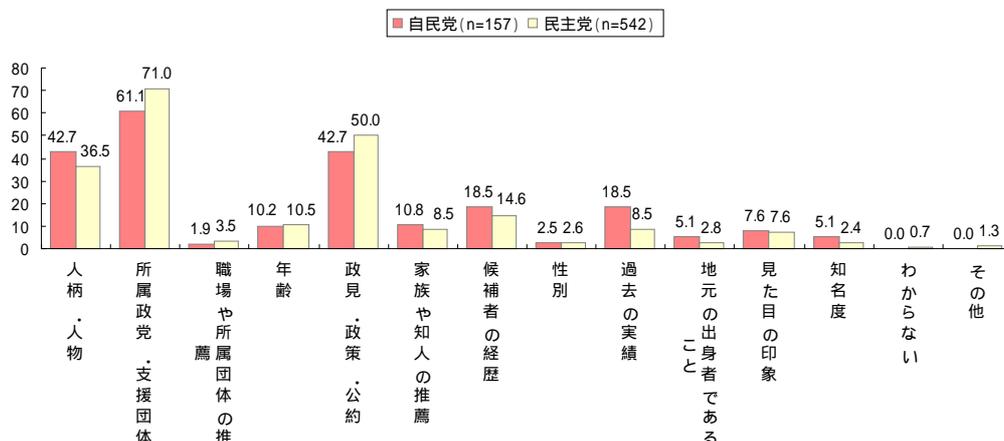


「投票する候補者を選んだ基準は？」

地方区でも、候補者は「政党代表」として選ばれた

投票する候補者を選ぶ基準は、自民党候補への投票者で「所属政党・支持団体」「政見・政策・公約」を選んだ人が比較的少なく、逆に「人柄・人物」「過去の実績」が多い。民主党候補への投票者は、「所属政党・支持団体」を基準で選んだ人が、71.0%におよぶ。地方区ではあるが、民主党候補への投票者は、候補者を個人としてより「政党代表」として選んだ傾向が見られた。

投票する候補者を選んだ基準(3つまで)

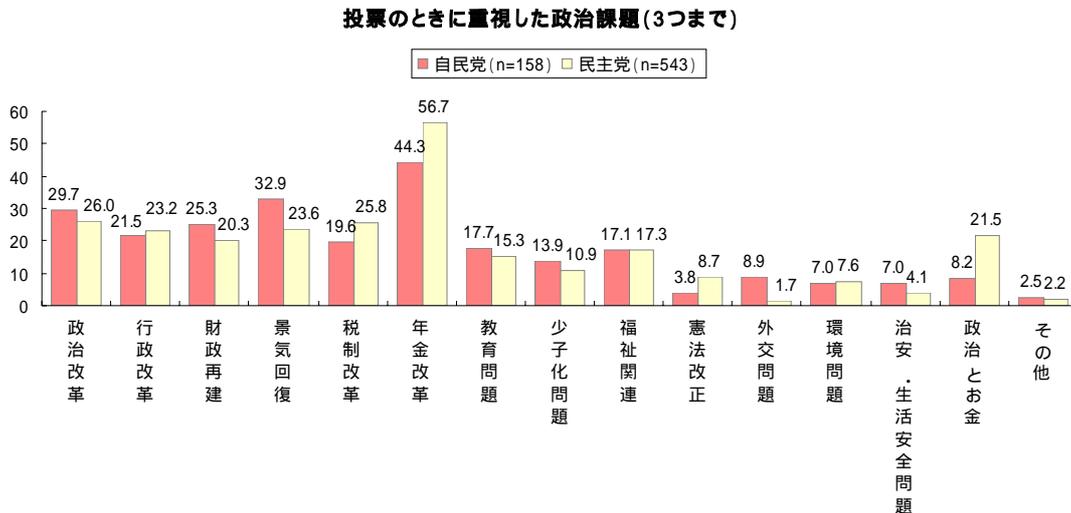


Press Release

「投票のときに重視した政治課題は？」

1位はどちらも「年金改革」だが、差は12ポイント以上

自民党、民主党、どちらへの投票者も「重視した政治課題」第1位は「年金改革」だったが、その差は12ポイント以上開いた。自民党候補者への投票者は「景気回復」「財政再建」などを選んだ人が比較的多く、経済問題を重視していることが分かる。民主党候補者への投票者は「年金改革」「政治改革」「税制改革」が上位で、現状を改革することを重視している。



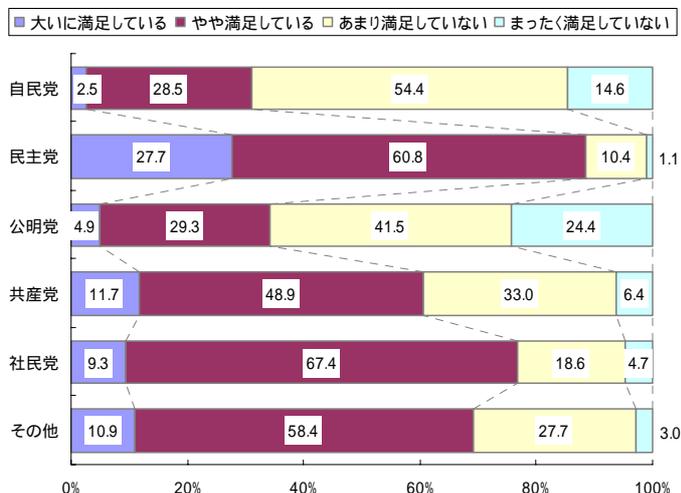
「今回の選挙結果への満足度は？」

自民・公明候補への投票者以外は、「満足」が多数

当然のことながら、自民党候補への投票者の69.0%が今回の選挙結果に「満足せず」。一方、民主党候補への投票者は、88.8%が満足している。共産党、社民党への投票者でも「選挙結果に満足」が「満足せず」を上回っていることから、今回の参院選では、多くの女性投票者の心の中では、「どの政党に投票するか」よりも、「自民を勝たせたいか、負けさせたいか？」という選択が行われていと考えられる。

フリーコメントでも多くあったのが、「とりあえず自民にお灸をすえたかった」(34歳・滋賀県)という気持ち。一方で民主党に対しては「自民党に投票しなくなかったから、民主を選んだ」「民主党は自力で勝ち取った勝利ではないことを認識しておいてほしい」(27歳・東京都)といった意見も。「満足」とはいいながらも、「当然の結果だとは思いますが、これで日本が良くなるのかどうかは疑問」(31歳・千葉県)という声もあった。

今回の衆議院議員選挙の結果に満足しているか



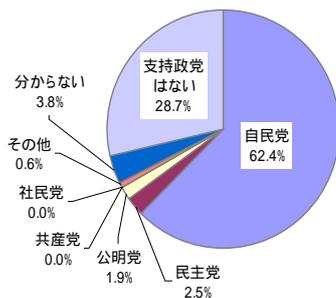
Press Release

「現在の支持政党は？」

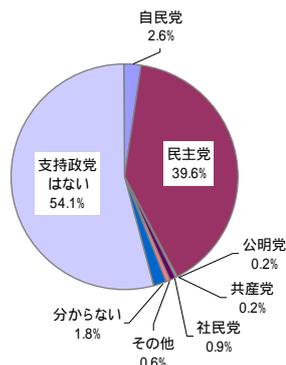
民主党へ投票はしたが、「民主党支持者」は4割以下

その心理を裏付けるように、アンケート実施時点（選挙終了後）の支持政党を聞いてみたところ、自民党候補への投票者の6割以上が「自民党支持」なのに対し、民主党後方への投票者のうち「民主党支持」は4割以下。半数以上は「支持政党なし」と回答した。

【自民党投票者】現在の支持政党 (n=157)



【民主党投票者】現在の支持政党 (n=543)



【回答者のプロフィール】 すべて女性

年代：20代 5.8%、30代 35.7%、40代 32.7%、50代 17.7%、60代以上 8.1%

職業：専業主婦 57.2%、パート・アルバイト 18.1%、フルタイム勤務 16.4%、その他 6.3%

今回の参院選地方区で投票した候補者の所属政党：自民党 15.7%、民主党 54.0%、公明党 3.6%、共産党 8.7%
社民党 3.9%、その他 9.1%、分からない 5.0%

アンケート時点での支持政党：自民党 11.2%、民主党 22.6%、公明党 3.2%、共産党 3.5%、社民党 2.2%
その他 1.1%、分からない 2.8%、支持政党なし 28.7%

【調査データ概要】

調査方法：サンケイリビング新聞が運営する女性を向けウェブサイト『えるこみ』のユーザーを対象としたWEBアンケート
調査期間：2007年8月2日～5日（4日間）
回答者：1463人。その中で、7月の参議院選挙で投票した女性1243人について集計
調査実施：サンケイリビング新聞社
集計分析：リビングくらしHOW研究所

【データに関するお問い合わせ先】

株式会社リビングくらしHOW研究所
くらしHOW研究室 藤田
TEL:03-5216-9420 / FAX:03-5216-9430
info@kurashihow.co.jp